



## 資料管理の見直しと有効活用に向けての取り組み

### —「司書アシスト4」を導入して—

山本 温子

#### I. はじめに

明石市立市民病院図書室（以下「図書室」）では、2014年度の終わりに蔵書管理ソフト<sup>注1</sup>「司書アシスト4」と付随の「HOLS (Hospital Library Support)」を導入し、蔵書データの管理と図書室のホームページを開設しました。

ここでは、「司書アシスト4」の導入に至るまでの準備や図書室の変化を詳らかにし、その利点と問題点についてふれるとともに、さらに地域医療支援病院の図書室としての役割を担えるように思索した過程を述べていきます。

#### II. 施設概要

明石市立市民病院は、許可病床数357床、稼働病床数301床の急性期病院です。当院の特徴の1つとして、地域医療支援病院であることが挙げられます。地域医療支援病院とは、地域の診療所や病院を支援する機能を有する病院のことで、その役割として「紹介制の推進」「救急医療の充実」「施設設備の共同利用」「症例検討会の開催」などが求められています。2016年2月1日現在の職員総数は586名で、うち医師は研修医も含めて約60名、看護師・准看護師が約320名、医療技術職員が約90名、その他ヘルパーや事務職員が約120名となっています。

図書室の総面積は76.9m<sup>2</sup>で、インターネット

用パソコンが4台、閲覧用机が1台、椅子が6脚あります。蔵書数は雑誌約230種、製本雑誌約6,000冊、図書約2,800冊です（近畿病院図書室協議会2015年度統計調査報告より概算）。

#### III. 着任当初の図書室の状況

私が2013年4月に着任した当初、図書室では古い手書きの台帳はすでに廃棄され、残っていたのは図書台帳の一部と未更新のカード目録でした。受入資料はデータ管理されておらず、院内各所に配置されている資料についても把握するのが難しい状態でした。図書室内には単行書の棚、新着雑誌の棚、インターネットが利用できるパソコンコーナーがありました。資料は分類されておらず、おおよそに配架場所も定まらないまま診療科ごとに置かれているだけでした。

病院誌や定期購読雑誌は数カ所に分かれて配架されているものも多く、利用者からどこにどのような本があるのかわからないという意見がありました。

配架が乱れていた要因として、購入や破棄による蔵書数の増減や図書室担当者の異動などが考えられましたが、統一した受入方法や整理基準がない上、担当者の異動時に業務が引き継がれなかったことが一番の問題だと考えました。

#### IV. 蔵書管理ソフト導入のために試行錯誤したこと

利便性が向上した図書室を目指すため、資料を整理し、書誌データベースを構築し、院内資

やまもと あつこ：地方独立行政法人 明石市立市民病院  
経営管理本部 総務課

注1) 蔵書管理システムを構築するために、あるソフトウェアをインストールした。本文では、「司書アシスト」に対し、「蔵書管理ソフト」という表現を用いている。

料を管理することでその道が開けると考え、以下の点を目標に掲げました。

- ①病院図書館としての機能を高めるため、必要な資料を収集し利用者の活用を促す。
- ②利用者が資料に到達するまでの時間と労力をとらせない。
- ③美しく整理された図書室にする。
- ④図書室資料の管理がしやすい環境を整える。

私自身公共図書館での勤務経験はありましたが、病院図書館での業務は初めてのことが多く、病院図書館の機能や役割、基本業務などを学ぶ必要がありました。そこで近畿病院図書室協議会で開催されている新任者向け勉強会に参加しました。また総会・研修会では他病院の様子なども垣間見ることができ、図書室の方針もおおよそ定めることができました。

### 1. 分類法の選択

分類法は、病院図書館でよく使われている「米国立医学図書館分類法（以下「NLMC」）」を使用することにしました。そこで、『米国立医学図書館分類法：医学および関連分野における図書配架法 第5版/日本語版』（日本医学図書館協会編 日本医学図書館協会、1996.3）、『日本著者記号表：アルファベット順による二数字表 改訂版』（もり・きよし著 日本図書館協会、1974.7）の2冊を購入しました。

### 2. 目録形式の選択

昨今の高度情報化社会において、データベースの構築は必要不可欠なものです。より早く、利用者がプライバシーを侵害されることなく知りたい情報にたどり着くためには、所蔵する資料の書誌情報をデータベース化し、ホームページを通して検索し、資料を探せるようにする必要があります。そこで、目録はカード式ではなく蔵書管理システムを導入した方が良いと考えました。

### 3. 蔵書管理ソフトの選定

まずは他病院ではどのようなシステムを導入されているのか、近畿病院図書室協議会の統計調査報告書を参考に調べました。機能について

は統計調査報告書ではわからなかったので、個別にインターネットで調べたり、業者へ問い合わせて説明に来てもらったりしました。

次に選定した4社の蔵書管理ソフトを比較しました。機能面で重要視したところは、貸出・返却・検索・統計・予約などができるかどうかと、雑誌を製本していたので製本雑誌の受け入れがしやすいか、書誌データの入力がしやすいか、また相互貸借機能は使いやすいかなどでした。

予算の申請にあたっては、「当院は“地域医療支援病院”でもあるので、明石市の地域の医療機関も利用できるようなシステムである方が好ましく、またその方が申請も承認してもらいやすいのではないか」と上司からアドバイスを受けました。

各業者の製品機能と見積金額をそろえ院内で協議した結果、ナレッジワイヤの「司書アシスト4」（以下「司書アシスト」）と「HOLS」を導入することになりました。

司書アシストは、安価で最小限の機能を備えています。また付随のHOLSにより、地域の医療機関からもアクセス可能なシステムにできそうです。予約はできませんが、貸出統計がとれ、製本雑誌の受け入れがしやすく、相互貸借機能も備わっていました。

## V. 司書アシストを導入するにあたって図書室に起きた変化

司書アシストを導入する準備・作業期間は導入まで1年半、安定運用まで4年と設定し、導入前にできる作業からとりかかりました。初期設定時にデータを登録してもらえよう、あらかじめ準備できるデータ（書誌事項など）を用意しておき、足りないデータは導入後に登録していくことにしました。業者は導入時の初期設定時に1回来院するのみで、あとはメールや電話などでやり取りを行いました。

### 1. 古い資料の廃棄と資料のラベル貼付

図書室にはかなり古く利用のない図書や雑誌

がありましたので、廃棄作業を行いました。分類ラベルとバーコードラベル貼付作業は、はじめに図書室の図書・製本雑誌・未製本雑誌、次に各科や医師に個別に配布してある図書・雑誌の順に行いました。

図書室内の資料には、「図書費購入」「消耗品購入」「診療科別購入」「私物」「寄贈」といった受入形態の異なるものが混在しており、これらをどのように区別するか、後々までバーコード番号の付け方に悩まされました。

そこでバーコード番号は8ケタとし、番号の始まりについて雑誌は「1」、製本雑誌は「5」、購入図書は「7」としました。例えば、旧番号が「2479」の購入図書の場合、バーコード番号は「70002479」とし、別管理番号欄に旧番号2479もデータ登録するようにしました。

また司書アシストの書誌データ登録時、寄贈の図書は寄贈欄にチェックを入れることで管理できるようになっていますが、さらに購入した図書とそうでない図書を一目で区別できるようにするため、寄贈図書と消耗品として購入した図書、診療科別で購入した図書のバーコード番

号の始まりを「9」としました。

## 2. 図書室内のレイアウト変更 (図1~4)

図書室全体のレイアウトを変更し、棚の整理を行いました。まず、図書室の製本雑誌をタイトルの50音順に並べ替えました。また、図書室の図書を大まかにではありますがNLMCで並べ替えました。分類法で配架する前は看護部の図書がありましたが、それを図書室の入口側に持っていく、製本雑誌を配架していきました。ときどき同じ部署の職員に手伝っていただいたものの、配架におよそ3カ月を要しました。

## VI. 司書アシストについて

司書アシスト+HOLSの操作方法の簡単な紹介と、現時点で私の感じている利点と問題点です。

### 1. 司書アシストの初期設定

業者の訪問は初期設定の際の1回だけでしたので、こちらが用意したデータを司書アシストに読み込ませる(データコンバート)作業と、HOLSを使ったホームページの開設作業をお願いしました。

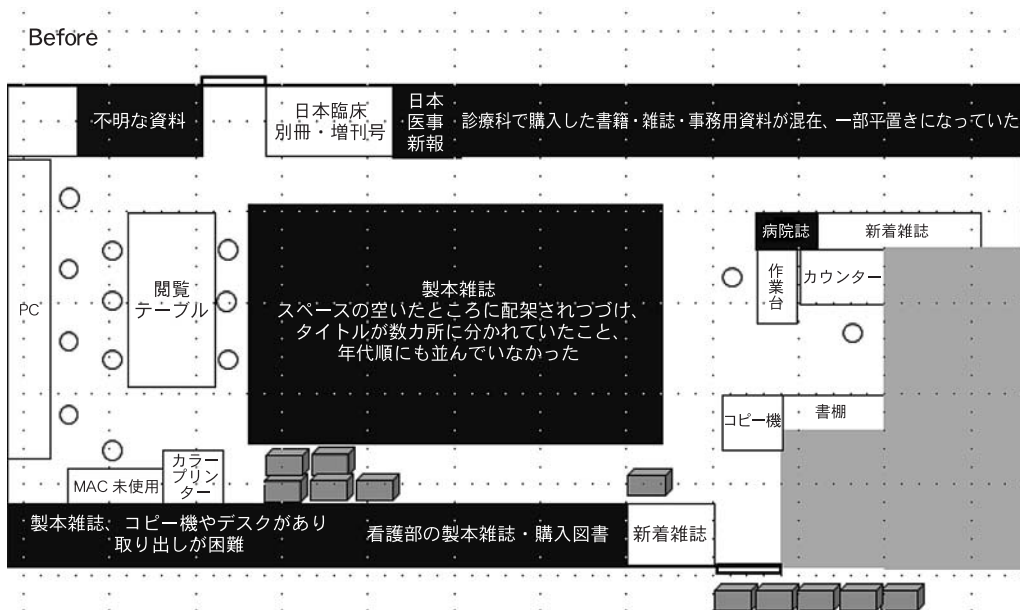


図1 図書室レイアウト変更前

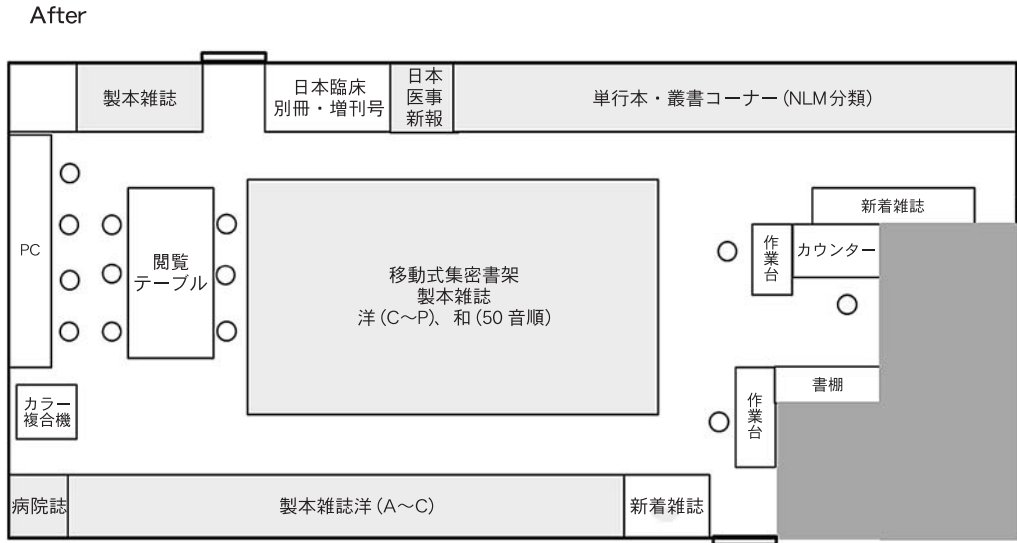


図2 図書室レイアウト変更後



図3 図書室入口  
(左側 新着雑誌棚/右側 書籍の棚)



図4 図書室奥側  
(タイトル順、左側より奥へ新着雑誌棚から製本雑誌 (洋雑誌) と並ぶ)

データコンバートは導入時のオプションであり、内容によっては別途費用がかかります。

図書・雑誌の受入データ (1冊1レコードの形式で保存されたデータ) と購読雑誌タイトルリスト、相互貸借申込・受付先リスト、所属部署 (利用者所属、購読希望部署、配架先) については、納品の時点ですでに取り込まれている

状態でした。2015年4月6日ナレッジワイヤの担当者が来室した際、受入データなどできちんと取り込めていない部分がありましたので、その修正も併せて取り込み作業を行ってもらったところ、その日に終わらず後日メールによる調整となりました。利用者情報のデータも後日取

り込みました。

操作については軽いレクチャーのみで、操作マニュアルについては、データとしてパソコンにも入っていますが別にプリントアウトされたものも受け取りました。

## 2. 司書アシストでできること

### (1) 雑誌の受入 (図5~6)

基本情報を登録し「購読中のタイトル」にチェックをいれておけば、購読中のタイトルだけが新着雑誌の登録画面の「誌名頭出し検索」に反映されるようになります。

また、購読中の雑誌一覧をPDFで出力し雑誌所蔵目録として利用することもできます。その他、新着の配架先だけでなく製本後の配架先も入力できるのは便利だと思います。

新着雑誌は、雑誌基本データで登録された種類別にフリガナ順で表示され、雑誌名または雑誌番号のプルダウンリストから雑誌を指定します。

### (2) 図書 of 受入 (図7)

1件を1頁で登録する画面を用います。書誌情報はHOLSにAmazonのデータを取り込む機能がついていますが、私はその機能を使わず1件ずつ入力しています。

分類番号はCiNii(サイニイ:NII 学術情報ナビゲータ)に掲載されている他施設の分類も参考にしました。CiNiiとは、論文、図書・雑誌や博士論文などの学術情報で検索できるデータベース・サービスです。著者記号は前述の『日本著者記号表:アルファベット順による二数字表』や著者名を入力すると変換してくれる「著者記号変換ツール」(<http://hegel.aichi-u.ac.jp/tools/rcode/index.html>)を使っています。

### (3) 相互貸借 (図8~9)

相互貸借の相手先の情報を入力すると「申込先」がプルダウンで表示され、併せて申込先の「基本料金」(複写料金)も表示されます。

利用者情報を入力しておけば、「氏名」に名字を入れた時に同じ名字の利用者一覧が表示され、

The screenshot shows a web-based registration form titled 'f\_jn\_base'. It contains the following fields and options:

- 雑誌番号: 25, ISSN: 00228362, eISSN: (empty)
- 新着連番分類: 1
- 製本連番分類: 5, 購読中:
- 雑誌名: 看護 = Nursing
- フリガナ: カンゴ
- アルファベット: (empty)
- 発行所: 日本看護協会出版会
- 発行地: 東京, サイズ: cm
- 変遷: (empty)
- 異誌名: Japanese journal of nursing / Official journal of the Japanese Nursing Association / かんご
- 領域名: 看護課
- 所蔵記録: 52-61,62(1-5,7,9-12),63(1-3,6-12),64(1-3,5-12),65<2000-2013>+
- 所蔵記録(EJ): (empty)
- URL: [http://www.inacc.co.jp/products/list.php?category\\_id=12](http://www.inacc.co.jp/products/list.php?category_id=12)
- 備考: (empty)
- 禁帯出(新着):
- 禁帯出(製本):  [購読中]
- 図書室ネット 目録掲載対象:
- NCID: AN00046428, NCID(EJ): (empty)
- 種別:
  - 和雑誌
  - 洋雑誌
  - 
  - 
  -
- 所蔵形態:
  - 冊子のみ
  - E-Jのみ
  - 冊子+EJ (〇〇年以降EJのみを含む)
- 新着配架先: 図書室
- 製本配架先: 図書室(移動書架)
- 製本対象:  (製本指示内容)
- 製本タイプ: (empty)
- 製本花形: (empty)
- 製本花色: (empty)
- 製本ネーム: (empty)
- 製本備考: (empty)

At the bottom, there is a search bar with the text '雑誌名検索' and a button '新規 終了'. The status bar shows 'レコード: 4 / 3 / 20' and '検索'.

図5 雑誌基本情報の登録画面

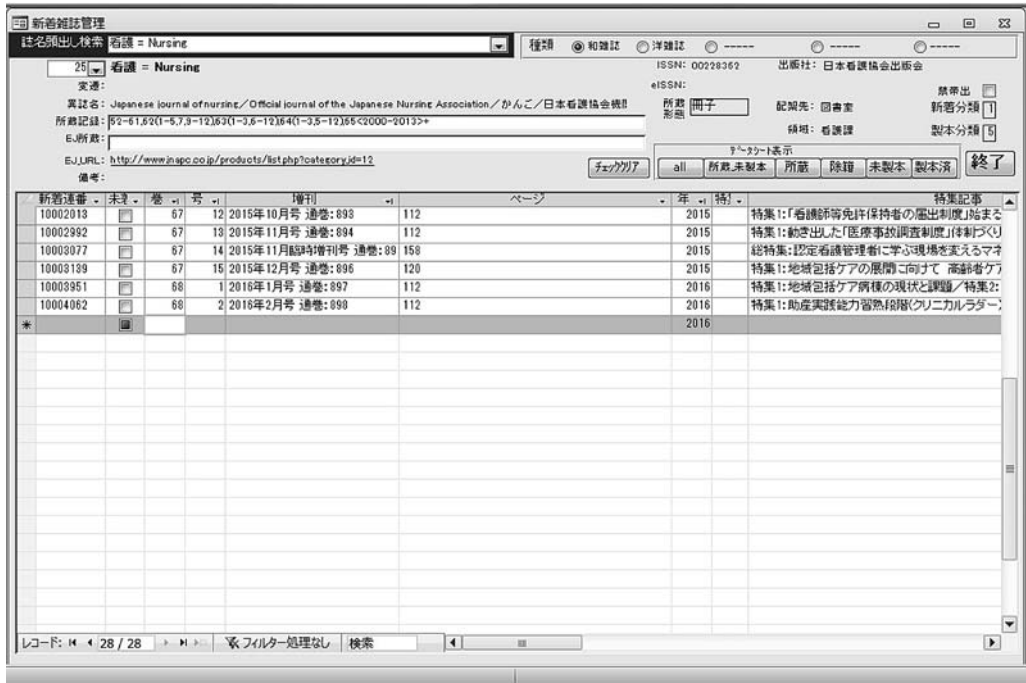


図6 新着雑誌登録画面

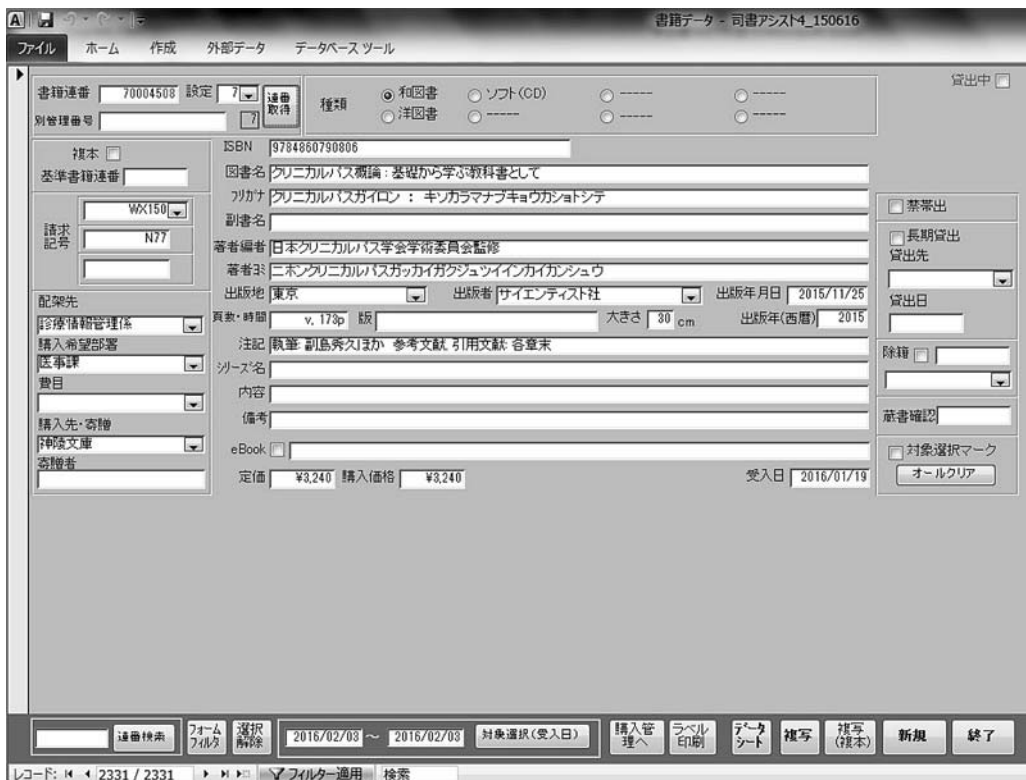


図7 書誌情報登録画面



図8 相互貸借申込画面



図9 相互貸借受付画面

該当する利用者を選択すれば、「氏名」だけでなく「利用者番号」「所属」「職種」の情報も同時に表示されるので、入力の手間が省けます。図書室では、文献入手にかかる費用はすべて公費

負担であるので「公費請求」にチェックを入れるのですが、そうではない施設では、利用者への請求書がすぐに作成できるので大変便利かと思ひます。

また「データシート」から入力したデータを一覧にして表示させることもできます。図書室では相互貸借の費用は月ごとに支払処理を行うので、月末にこのデータの一覧を Excel で外部出力して集計しています。

#### (4) ホームページ「HOLS」

外部サーバーにデータがあり、インターネット接続が必要です。ID・パスワード認証または IP 認証で利用できます。当院では院内からはパスワードなしで、外部からは ID とパスワードでログインしています。利用者が利用できるのは閲覧機能のみで、貸出中の情報を見たり（貸出情報は管理者用パソコンのみ閲覧可能）、資料を予約したりすることはできません。所蔵資料のデータ更新は、司書アシストの年間サポート料に含まれています。HOLSweb 目録からデータを書き出し、メールで業者に送付し更新してもらいます。

### 3. 利点

利点として次の点が挙げられます。

- (1) HOLS を使用することによって、院内資料の検索や新刊の案内ができるようになりました。
- (2) 近畿病院図書室協議会雑誌所蔵目録 Web 版「KITOcat」の更新が同時にできるようになりました。
- (3) 相互貸借の申込書の作成時間が短縮されました。
- (4) 請求金額が一度に集計できるようになりました。
- (5) 雑誌の受入作業がしやすくなりました。

これだけの利点があることを考えますと、年間サポート料は安いのではないかと思います。

### 4. 問題点

私の考える問題点です。

- (1) 雑誌の新刊表示にタイムラグがあります。現在約 2 週間おきに業者へ新規登録した雑誌データを送っていますが、当日か、あるいは担当者が出張などで不在の時などは 2、3 日後にデータが返送されます。

- (2) 特集記事の入力を出版社のホームページからコピー\*すると、データが消えることがあります。バックアップ機能がありますが、ちょっと面倒なので再度入力します。

- (3) 雑誌名から検索した誌名と異なった漢字で登録してしまうとヒットしません。

欲を言えば、図書入力画面で CiNii のデータを直接取り込めればと思います。CiNii のデータを基準にしておく、今後病院規模が拡張し、図書室機能の利便性の向上を図り NACSIS-CAT へ参加した場合、データの互換性を持たせることができると考えていました。司書アシストは Amazon のデータを取り込むようになっていたため、現在は CiNii のデータを開いてコピーしている点が少し不便です。

## VII. おわりに

まだまだ整理途中のため、今後院内資料の管理方法をさらに改善していきたいと考えています。地域医療支援病院の図書館として、資料内容を公開し、地域の医療機関などにも利用してもらうことで、その役割を果たしていければと考えています。

この度の蔵書管理ソフトの導入に際し、参加した勉強会で分類法について講義してくださいました洛和会音羽病院の藤原さまには、その後たびたびお電話でわからないことを教えていただきました。

また、2014 年の研修会の時にご相談した事務局長の藍野大学中央図書館の増田さまと関西労災病院の寺澤さまが、その後の 2014 年 9 月 9 日に図書室の様子を見に来てくださり、これからどう改善していけばよいかをアドバイスしていただきました。

院内での図書室へのサポートの他、院外の医療機関や大学、近畿病院図書室協議会の方々に大変お世話になりました。重ねてお礼を申し上

\* コピー・アンド・ペースト（英：Copy and Paste）の俗的な略語。



げます。

#### 参考文献

- 1) 日本病院ライブラリー協会病院図書室デスクマニュアル編集委員会編. 病院図書室デスクマニュアル:スキルアップのために. 改訂版. 旭川:日本病院ライブラリー協会;2008.
- 2) 病院図書室研究会デスクマニュアル編集委員会編. 病院図書室デスクマニュアル. 東京. 病院図書室研究会;2001.
- 3) 寺澤裕子:受入資料の装備を主とした当院図書室業務の見直し. 病院図書館. 2008;28(2):69-73.
- 4) 藤原純子:NACSIS-ILL 参加報告 よりよい相互貸借を目指して. 病院図書館. 2001;30(2):61-5.
- 5) 大西幸雄:【図書館ホームページ開設への道】病院図書室ホームページ“HOLS (Hospital Library Support)”について. 病院図書館. 2008;28(1):21-6.